

「第 13 回 空港内の施設の維持管理等に係る検討委員会」 議事概要

日時：令和 7 年 7 月 31 日(木) 15:00～16:30

- 盛土地盤の体積収縮を考慮した変形解析では、“累加せん断ひずみと体積ひずみの関係”の設定が重要となるため、力学試験時の拘束圧の設定について検討すると良い。
- 不均質性や異方性を有する盛土地盤での試験結果の平均化の方法について、ダムや道路などの転圧・構築された構造物の考え方を参考にして、検討するとよい。
- 地盤変形は、斜面の変形による沈下の影響も考慮するとよい。
- 盛土地盤の体積収縮を考慮した変形解析の結果を用いて対策方法を検討する際には、どのようなアウトプットで評価し、どの様な閾値を設定するのか、プログラムの精度を踏まえて検討するとよい。
- 能登空港被災状況の解析については、土質試験を実施した上で、再現性の向上及び解析プログラムの検証を行うとよい。
- 盛土地盤変状対策を検討する 7 空港の盛土地盤の体積収縮を考慮した変形解析にあたっては、次の点に留意して、開発したプログラム（PARI-GDA）を使用するとよい。
 - ・“累加せん断ひずみと体積ひずみの関係”は、地層毎に設定するとよい。
 - ・このプログラムでは、累加せん断ひずみに、軸移動によるひずみ分が考慮されているため、盛土法面の水平変位が大きい場合には、地盤の体積収縮が過大に評価される可能性があることに留意する。